

環境白書の刊行にあたって



富山県は、立山連峰や黒部峡谷などの世界的な山岳景観、ユネスコが支援する「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟が全会一致で承認された神秘の海・富山湾、さらには本州一の植生自然比率を誇る森林、「名水百選」「平成の名水百選」に全国最多の8か所が選定されている清らかな水環境など、豊かな水と緑に恵まれています。私たちは、これらの素晴らしい環境を守り育て、県民の大切な財産として、次の世代に引き継いでいかなければなりません。

現在、地球温暖化や生物多様性の損失をはじめとする地球的規模の問題から、廃棄物や野生動物の保護・管理、大気・水・土壌の汚染などの身近な問題に至るまで、私たちは様々な環境問題に直面しています。また、東日本大震災以降、環境・エネルギー問題に対する関心が一層高まっており、ライフスタイルや事業活動のあり方を見直した安全・安心で持続可能な社会づくりが求められています。

幸い、富山県では、恵まれた自然環境や県民の皆様の環境問題に取り組む真摯な姿勢に支えられ、全国初となる県内全域でのレジ袋の無料配布廃止や「とやまエコ・ストア制度」の創設をはじめ、法制定のモデルとなった小型家電リサイクル、全国トップクラスの包蔵水力を活用した小水力発電の推進、「水と緑の森づくり税」を活用した里山林の再生など、県民総参加による幅広い取組みを進めてきています。

このように県全体、県民総参加で環境施策に積極的に取り組んできたことなどが評価され、昨年5月には「G7富山環境大臣会合」が本県で開催されました。会合では、本県の名前を冠した「富山物質循環フレームワーク」が採択され、食品ロス・食品廃棄物の削減推進などの取組みを着実に実施していくこととされました。

これを受け、県では、今年5月に「富山県食品ロス・食品廃棄物削減推進県民会議」を設置し、県民、事業者、関係団体、行政などが一丸となって食品ロス等の削減に向けた全県的な運動を推進しています。

また、大臣会合に合わせて開催した「2016北東アジア自治体環境専門家会合 in とやま」では、「2016とやま宣言」が採択されました。県では、これに基づき、環日本海地域の地方自治体と連携して、同地域の環境保全についても積極的に取り組んでいます。

さらに、全国初となる全県単位でのレジ袋無料配布廃止の開始から10周年の節目を迎える来年10月には、「3R推進全国大会」が本県で開催されることが決定しており、県としては、これを契機として、本県の環境施策を全国に向けて発信するとともに、3Rの取組みを一層推進してまいります。

この環境白書は、平成28年度における本県の環境の状況を紹介するとともに、平成29年度の環境の保全及び創造に向けた取組みについて取りまとめたものです。本書を通じて、多くの皆様に富山県の環境への理解と関心をさらに高めていただき、「環境・エネルギー先端県」を目指す本県の環境施策にご協力を賜りますようお願いいたします。

平成29年11月

富山県知事 石井 隆一